

## 巻 頭 言



川崎市長 福田 紀彦

# 多様性豊かで 魅力あふれる国際都市を目指して

はじめに、このたびの新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様に、心からお見舞い申し上げます。川崎市としましても、近隣自治体等と連携しながら、さらなる取組を進めてまいります。

さて、本市は、日本の総人口が減少局面にある中でも増加が続いており、昨年5月、政令指定都市の中で第6位（152万6,630人、2019年5月1日時点）となりました。外国人住民人口は、20年前と比較して約2.2倍の4万5,638人（2019年12月末時点）となり、出身の国籍・地域数は130を超えており、人口増とともに多様化が急激に進んでいる都市です。

これまで、全国に先駆けて「多文化共生社会推進指針」を策定するなど、全ての人が互いに認め合う多文化共生社会の実現に向けて取り組んできました。昨年12月には、「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」を制定し、今後、国籍、信条、性別、障害などを理由とした不当な差別を生まない土壌を築くよう、さらなる取組を進めていきます。

2021年に開催が延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けましても、東京に隣接する本市では、訪日外国人の円滑な受入や、市内施設で予定している英国代表チームによる事前キャンプを見据えて、国際都市としてふさわしいまちづくりが、これまで以上に求められています。

こうした中で、本市では、「かわさきパラムーブメント」として、誰もが自分らしく暮らし自己実現を目指せる地域づくりを目指し、多くの取組を展開しています。

例えば、「パラスポーツやってみるキャラバン」は、社会教育等の一環として、子どもたちが、車椅子バスケなどの障害者スポーツの体験を通じ、障害への理解・関心を高めることを目的とし、2020年度末までに市内公立小学校全114校での実施を目指しています。昨年8月には、このような一連の取組が評価され、「先導的共生社会ホストタウン」として国から認定を受けました。

一方、海外との交流の分野では、8つの姉妹・友好都市を含む諸都市と様々な交流を行っています。昨年10月には、姉妹都市提携40周年を記念して、本市代表団が、米国・ボルチモア市を訪問しました。同市とは、両市のボーイスカウトによる相互交流が長年続いており、今後も未来を志向した交流に取り組むことを確認しました。

このほか、海外諸都市との交流においては、本市と相手都市等の持つ特性を活かし、互いの課題を共有しながら、都市の発展に向けて知見を交換し、より効果的な連携を目指しています。

今後も、本市の持つ強みと多くの魅力を活かしながら、「多様性を活かしたまちづくり」の取組をさらに先へと進め、多様性豊かで魅力あふれる国際都市を目指してまいります。